

# 道普請 現地の人鼓舞

乗り越えて 4



子どもの頃、泥んこ遊びに明け暮れていた。木村亮(60)は還暦を迎えてもなお、アフリカや東南アジアで泥まみれになり、住民と一緒に悪路を直す「道普請」に、1年の3分の1を費やしている。

## 京都大工学研究科教授 木村 亮さん

アフリカの道路整備には先進各国が参加していた。重機と自国の技術者をセットで持ち込み、きれいにアスファルト舗装を仕上げていく。しかし、完成すれば、技術者は帰国してしまうし、技術が現地の人々に伝えられるわけではない。だから、きれいになった道も、やがて荒れていく。

木村は当初、道路の維持管理に当たってもらおうと、ケニアの大学で土木工学の技術者を育てた。だが、技術者たちも現場では思うように実力が出せず、道普請の結果が出なかった。

考え続け、「ローテク(簡便な技術)」「ローコスト(低価格)」「ローカル(現地)」「ローバース(人力)」の「4L」を基本にすればいいのはわかった。では、土木

技術としては何を使うのか。解決の鍵はあきらめるほど身近にあった。「土のう」を使うのだ。土は現地にありあまるほどある。袋は1枚20円ほどのプラスチック製のもののほか、住民が日々の生活で使う麻袋、バナナの繊維で作る袋が使える。農道を1が直すのにワンコイン(500円)で済む。重機など必要としない。4Lの全てを満たしてしまう。

京都大の実験場で試行錯誤を重ね、効果的に土のうを積み方法を7年かけて完成させた。道路を掘り下げて土を詰めた袋を何層も積み重ね、大きな木づちで20回ほどたたいて固める。すると、土のうの層はコンクリートのように硬く締まる。

アフリカや東南アジアでは、雨期になると道路は泥沼になり、四輪駆動車すら走れず、子どもたちは学校に通えなくなる。診療所へ向かう途中に立ち往生した車の中で、妊婦がおなかの子どものこともに死んでしまう。そんな惨状をどれだけ見聞きしてきたのか。

「住民と一緒にあって、いや、住民が中心になって道を直してもらおう」。1993年、土木工学を教えるためアフリカ・ケニアの大学に赴任し、以来、道普請に全力を注いだ男の信念だ。



①「現地の人たちが自分のできる方法を伝える。それが真の国際貢献ではないですか?」。木村は熱く語った(西京区で) ②アフリカ・カーナの人々が「土のう」で道普請に励む 木村教授提供

なたたち自身で直せるんですよ」と。

人々が集まってきた。泥水をかきだし、高らかに歌って踊り、土のうを木づちで突き固めてくれる。道ができていく。いぶかしげだった人たちも、今では道普請の先頭に立っている。

「自分たちの道は自分たちで直す」。現地の人々の間にそんな意識が芽生えた。木村は言う「真の国際貢献って、こういう姿ではないのか」。最新技術で一時、きれいな物を仕上げれば終わりではない。

現地でも道普請ができることを示した。「道を直せば作物を出荷して収入を手に入れる。子どもが学校に通えるようになる。みんなと一緒に道を直そう!」。村人たちを励まして回った。

ローテクの伝授は、現地での講習会でまかなえる。日本の大学教授がアフリカの集落に出向き、漫才みたいにしてしゃべりまくり、人々を鼓舞している。「どんな悪路でも、あ

下京区にNPO法人「道普請人」を設け、アフリカの18か国アジア・オセアニアでは9か国など、計29か国で道を直した。関わった182キロのうち土のうで64キロを直した。

2013年、土のうを使う道普請は、ケニア政府公認の道路整備工法に認定された。友達と泥んこになりながら、物を造り上げるのが好きだったから、工学研究者になった。「仕事は遊びの一部、研究も趣味」。そう豪語する男の生きざまが、たくさんの国で人々を幸せにしている。

科学者たちはと現代アートと観覧車が、5日、京都文化博物館文化庁メデイア展「科学者の世界を見つめよう」13日まで。

「ふしぎだ、これが科学の言葉で始まる色紙が来場者会場では朝永

「ふしぎだ、これが科学の言葉で始まる色紙が来場者会場では朝永

「ふしぎだ、これが科学の言葉で始まる色紙が来場者会場では朝永

「ふしぎだ、これが科学の言葉で始まる色紙が来場者会場では朝永

<b>あすのこよみ</b> 6日(水) 先負旧暦	<b>天気</b> 北部 北西 南部 北 (あす)	<b>きょう</b> 午前 午後 夜 降水確率 [30] [30] [30]	<b>京都</b> [30]	<b>京田辺</b> [30]	<b>福知山</b> [60]	<b>舞鶴</b> [60]
--------------------------------	------------------------------------	---	-------------------	--------------------	--------------------	-------------------

科学者の現代アートと観覧車が、5日、京都文化博物館文化庁メデイア展「科学者の世界を見つめよう」13日まで。